

—小論—

決算書にある「－（マイナス）」を

排除して見えるものがある。

それでも「二項目増減分析」に徹底せよ！

視点一

× 売上－売上原価＝粗利益（売上総利益）・・・粗利益さえ出れば良い

○ 売上＝売上原価＋粗利益・・・・・・・・三項目の増減での分析評価

視点二

× 粗利益－販管費（販売費及び一般管理費）＝営業利益・・・営業利益が出れば良い

○ 粗利益＝販管費＋営業利益・・・・・・・・三項目の増減で分析評価

視点三

× 営業利益＋営業外収益－営業外費用＝経常利益・・・経常利益が出れば良い

○ 営業利益＋営業外費用＝営業外収益＋経常利益・・・四項目の増減での分析評価

視点四

× 経常利益＋特別利益－特別損失＝税引き前利益・・・税引き前利益が出れば良い

○ 経常利益＋特別利益＝特別損失＋税引き前利益・・・四項目の増減での分析評価

視点五

× 税引き前利益－法人税等（税）＝当期純利益・・・当期純利益が出れば良い

○ 税引き前利益＝法人税等（税）＋当期純利益・・・三項目の増減での分析評価

視点六

× 総資産－負債の部＝純資産・・・負債の部は少ないほど良い

○ 総資産＝負債の部＋純資産・・・三項目での増減での分析評価

以上の六個の算式は（×印）は決算書に内蔵されている「計算式」である。

その引算の性質上、決算書を読む者はマイナス項目が少なければ少ないほど良いと評価しがちである。

一方(○印)のように算式を変化させ、三項目乃至四項目の全体的同時増加を成長とし評価するのが Up Down 方式経営分析の考え方である。視点一から視点六までを点数化して「決算評価書」を作成することもできる。しかし「二項目増減分析」に徹底してこそ「経営の体温計」なのだ。